

ACにちなん事業協同組合を活用した労働力確保(事例2)

【取組の経緯】

- ・当社では、いちごの観光農園といちごの加工販売を行っており、収穫がメインとなる4月が農繁期となり、人手不足となる。
- ・当時は、従業員の退職と農繁期が重なり、定期的に人材確保の必要があった。その際、短期的な活用ができるACにちなん事業協同組合の存在を知ったこと、また、当組合代表と顔見知りであったことから組合員として参加した。

【取組の概要】

- ・いちごハウス70a
観光農園40a(いちご狩り:年間15,000人程度)
加工・直売用30a(ジャム加工、カフェ・キッチンカー)
- ・加工用については、収穫後冷凍保管し通年使用。そのため従業員は、年間をとおして雇用
- ・従業員については、社員2名、パート4名を雇用しており、観光農園最盛期及び収穫最盛期には、組合派遣職員1名及びタイミーを活用し労働力を確保。
- ・従業員に対しては、労働力としてだけでなく、農業の魅力を知ってもらうために、施設内遊休地を活用し、家庭菜園的な野菜栽培を勧めている。

【今後の事業展開】

- ・観光農園の規模については、現状維持を考えているが、今後は、ジャム加工・冷凍いちごの販売等を拡大していく予定。



代表取締役の南さん



営業時の農園



いちごの育苗ハウス